

願うだけではなく行動へ

愛媛県立今治北高等学校

一年 山口凜華

「お父さん…お母さん…！」

埃くさい船内の荷物置き場。そこに、一人の少女。荒波を立てながら日本を離れる船。少女の意志など一つも聞かずに…。

彼女、横田めぐみさんが北朝鮮に拉致されたのは、もう四十四年も前のことだ。

私が生まれる何十年も前から、めぐみさんは日本にいない。私も物心がついてから現在に至るまで、何度も横田夫妻の会見を目にしてきた。そうは言っても、私には縁遠い話である、と心のどこかで思っていた。国と国との問題だ、と。しかしそれは大きな間違いだと気づいた。高校生になり改めて拉致問題について考えさせられる機会があった。アニメ「めぐみ」を観たのだ。

そこには、ごく一般の家庭があった。横田家は、愛に溢れていて、みんなが幸せに暮らしていた。しかしたった一瞬の、非情な「拉致」という行為が、めぐみさんを取り巻く多くの人の運命を変えてしまった…。私はインターネットで再度、横田夫妻の会見を見た。強い訴え、めぐみさんの写真、涙…。私の中で様々な想いが交錯した。横田夫妻は、どれだけ泣いただろう。苦しんだだろう。それでも立ち上がり、上を向くしかないと行動に移すまで、どれだけの時間がかかっただろうか？そして、めぐみさんも同じ、いやそれ以上に辛い想いをしている。被害者の十七名、家族の方々のために、拉致被害者に対する現状について理解を深め、自分達に出来ることを探そうではないか。

高校生の私に出来ることとは何だろう。まず一つ目は、拉致問題について知ってもらえるように身近な人に勧めることだ。インターネットで「政府インターネットテレビ アニメ めぐみ」と検索してみしてほしい。拉致の惨さが伝わるはずだ。誰もが胸を締め付けられ、他人事とは思えなくなるだろう。更にそのホームページでは、動画への意見・感想を記入できる。次に二つ目は、この作文を書いたようにSNSで発信することだ。私が世界へ呼びかけることで同調し、行動してくれる人を増やせるかもしれない。そして三つ目は金銭面で支援することだ。ブルーリボンバッジをご存知だろうか？一個五百円で購入でき支援金を送れるのだ。更にそのバッジをつけることで意志表示にもなる。私も通学鞆に早速つけている。ほら、出来ることは多くある。「知らない」じゃない。「機会がない」でもない。自分から近寄ろう！待っているだけでは叶わない。国民みんなで立ち上がるのだ。

「ただいま！」

めぐみさんの声が聞きたい。